

「地域の方々やモノ・コトとの出会いのなかで、生徒たちが『やりたい!』に挑戦できる学びをつくる」 山梨県立富士北稜高校における課題研究授業づくりを開始します!

今春4月より、NPO法人青春基地(代表理事 石黒和己)は、かえる舎(代表 斎藤和真/赤松智志)とともに、山梨県富士吉田市内に位置する「県立富士北稜高校」において、地域のヒトやモノ・コトから学ぶ一年間のプロジェクト型学習のカリキュラムづくりと授業運営の協働事業をスタートします。

●富士北稜高校におけるアクティブ・ラーニング型授業について



●山梨県立富士北稜高校とは

2004年に、吉田商業高等学校と北富士工業高等学校を合併・新設された富士山の麓にある総合高校です。

今回の授業では、情報系列の三年生30名に対し、通年約週1回(2コマ)の課題研究授業のなかで、アクティブ・ラーニング型のプログラムを実施。「地域のヒトやモノ・コト」をテーマにフリーペーパーづくりに取り組み、多様な出会いのなかで学びます。

●実施の背景

本年度から、観光ビジネスコースが本格的に始動いたします。その中で、地域のこと・富士山のことについて、知らない生徒が意外に多くいます。さまざまなアプローチ・行動をしながら、生まれ育った地域のことを知るために実施いたします。

また地域や人とののかかわりの中で、生徒たちの興味関心と出会えることも大切にし、挑戦意欲や自己肯定感へ繋げていくことを目指します。

写真:(上)富士北稜高校学校長・担当教員とともに。(下)学校の様子

●本事業のはじまりによせて：山梨県立富士北稜高校校長・渡邊信介先生より

本校では、「個性および能力の伸長に務め、生徒一人一人の進路実現を図ること」、「地域に貢献できる人材を育成すること」を目標に、地域一番校・総合学科日本一を目指しております。また総合学科の特色を生かし、商業教育に絞らない幅広いスキルや経験を身につけることや、偏差値に縛られない人づくりを大切にしております。

しかし地域と連携した取り組みはまだまだ弱く、今回の授業のなかで、地域のヒト・モノ・コトと繋がる経験を通じ、デスクワークやそれらの技術ではなく、センスやアイデア等を生徒たちが身につけてほしいと期待しております。

2017年4月7日 山梨県立富士北稜高校 学校長・渡邊信介

●かえる舎・NPO法人青春基地の紹介



写真:両サイド2名がかえる舎、中央2名がNPO青春基地、

●かえる舎(地域コーディネーター)とは?

かえる舎は高校生と地域の接点をつくり、それらを見つめ、考え、活かすことで社会に関わる一歩を踏み出す手助けをしています。「やらされた」じゃなくて「やりたい」をつくる。未来の大人が夢をふくらませて、自分らしく活躍するための準備体操。自分をかえる、社会をかえる、そんな大人を目指して。

●NPO法人青春基地(カリキュラムコーディネーター)

<想定外の未来をつくる!>をコンセプトに、中高生それぞれの「やってみたい!」を動かし、それぞれの意欲や好奇心を触発する機会づくりをしています。<Project Based Learning(PBL)>を用いたプロジェクト型プログラムと、10代向けウェブマガジン青春基地の運営をしています。

【本件に関する問い合わせ先】

NPO法人青春基地 広報担当者:千葉

電話:080-4082-3350 mail: info@seishun.style

【取材申し込み】

*取材をご希望の際は、メールにて申込みをお願いいたします。